

国会図書館版の実記について(1)

2010/05/15 鵜飼直哉

A この資料の主旨と目的

「米欧回覧実記」の原本については岩波版第五編 383 頁以下に田中彰先生の詳しい解説がある。それによると、明治 11 年の初版(A 本)から明治 16 年の普及版(D 本)まで四回改版されている。一方、私が現在取りくんでいる「デジタル実記」では国会図書館版を底本としている。第四刷までの中で、国会図書館版がどの版であるかを明確にすることは当然必要である。その答を求めて調べてみた。

その結果、従来の初版から第四刷まで発行されたとする定説を覆すことになった。

ここでは第二刷が複数版あるという仮説「B1・B2 説」をたてて今後の検討の課題とし、以下に現在までに判明した部分だけを纏めることとした。

B 参考原典

(1) 「国会図書館版」について

実記の原典を一般に公開しているのは「国会図書館・近代デジタルライブラリー」¹で閲覧可能な版が唯一。デジタル実記の底本はこの版を使う以外に選択肢はない。

以後、これを「国会図書館版」と略称する。

各編の最終頁に

第一編：022194-001-8 34-88 M11 ADA-0623)

第五編：022194-005-9 34-88 M11 ADA-0627)

などの(旧)識別記号のゴム印がある。M11 は明治 11 年の意味であろうが、この版が明治 11 年発行の初版であるか否かは不明。

(以下、個々の版数を問わないときは「明治版」でこれらを総称するものとする)

(2) 宗高書房復刻版(1975) (国会図書館・請求記号[A99-Z-72])に関しては本文 4 頁の附記参照。

(3) 国立公文書館デジタルアーカイブス²に 12 冊が公開されているが画像データはない。現在未調査。

(4) 「岩波版」について

ハードカバー版(1977 年)と文庫版(1982 年)とは、本文部分は頁番号を含め、完全に一致。

最後の「解説」に追加があるのみ。従って、特に記述しない限り区別する必要なし。

岩波版に追加された注記と解説は以降、「田中校注」「田中解説」とする。

(第一編の地図は、岩波版は明治版の地図を基にして書き直してあり上下を逆にしたものもある)

(5) 水澤周「現代語訳・米欧回覧実記」は岩波版を底本にしている。

但し、地図は明治版の原版通りに戻してある。

(6) ここでの表記法(編数、頁数、行数)の例

国会図書館版 (一)46.10

岩波版 ①79.07

現代語訳版 ①70.01

なお、各巻の始めにある空白行も行数に加えるものとする。

¹ <http://kindai.ndl.go.jp/> (請求記号 YDM22194)

² <http://www.digital.archives.go.jp/>

E 検証(3)

明治版	岩波版	誤	正
(一)24.03	①61.03	六十里	百五十英里
(一)47.06	①79.15	贗金粉	賽金粉
(一)69.12	①98.03	五四歳	五六歳
(一)69.14	①98.06	一人男生	一ノ男生
(一)79.04	①105.14	深謀	遠謀
(一)112.10	①133.09	「ベーリング」	「ベーリング」
(一)119図面	①138図面	北西二度	北四二度(明治版のみ)
(一)152.06	①167.14	博士	博士
(一)176.14	①186.01	麦作ヲ比較スレ	麦作ヲ比較スレハ
(一)234.03	①236.02	七大船	米国二七大船廠
(一)261.08	①257.03	森瀨	森瀨
(一)269.14	①262.14	士民	士民
(一)342.10	①325.07	集貸	集貸
(一)348.16	①331.16	問フコト失	問フヲ失
(一)359.07	①341.10	経文ノ世界	経文ヲ世界

国会図書館版第一編の目次と本文との間に左上のような正誤がある。「丁」は頁を指す。

なぜか第一編だけに付いており、残りの四冊には影も形もない。

この全体を表の形に纏めたものが右上の正誤表である。一度作っておけば後々楽になる。

調べてみると、宗高書房版(B本)には全く反映されていない上に、正誤自体が入っていない。

一方、岩波版は総て修正済みである。田中解説には書いてないが、これは岩波版の底本が修正済であったのではなく、岩波版の編集時にこれを反映させたと考えるのが妥当と思う。

結局、この検証(3)は、国会図書館版はA本の後から出版されたいという推測に終わった。

F 仮説「B1・B2説」について

以上の検証作業の結果、『国会図書館版はA本～D本のいずれにも合致せず、A本とB本との間に位置するものである』との結論になる。

これは、323～385と①416.08～418.13に『実記は明治11年10月に初版発行の後、同12年、13年、16年に増刷され、第一刷から第四刷の各々(M11, M12, M13, M16)を合計3500部印刷』とする従来繰り返し読んできた田中解説に対する異論となる。もう少し考えた。

[一つの仮説]

417.04～によると、『明治11年12月末に発売の初版500部はたちまち僅少となり、博聞社は至急1,000部の再販を12年2月に予定した』とある。国会図書館版を別に発行する余裕があったとは考えにくい。

また、『博聞社は独自の費用で鉛版の紙型をとり増刷に備えた』(①416.10～)との事である。

当時の印刷技術について私は全く知らないが、ひとつの紙型で1,000部を印刷することが可能だったのか？

もしもそうでないとすると、第二刷のための紙型を何種類か平行して準備したことが考えられる。短時間の人海戦術で複数の紙型(一式2000枚以上)を作るには、手作業の修正に混乱があっても不思議ではない。

検証(2)で示したように国会図書館版は完成度が高く、B本との差も僅かである。

以上の検討結果から、第二刷の原版は複数あったのではないかと推察する。

ここでは宗高書房版の底本によるものを「B1本」、国会図書館版を「B2本」と考えて「B1・B2説」と仮に呼ぶことにし、国立公文書館蔵書分などを調べながら今後この仮説の検証を進めてみたい。

皆さまのご批判、ご意見を頂ければ幸いです。

以上

(追記)

「書」と「畫」と「畫」の話

問題の発端(「画」の字の問題)

スイス編三巻(第84~86巻)のデジタル実記作成中に気付いた点。

岩波版で 「文、語、書、画、數、史、地」(⑤93.13)

の部分が国会図書館版は 「文、語、書、書、數、史、地」(右図(五)81.13)

となっている。更にこれに続いて次の記述がある。

(五)82.02 : 「書八圖引ノ規則、方圓ヲ書ク₁ヲ慣熟シテ、物象ニ及フ」

⑤94.01 : 「画八圖引ノ規則、方圓ヲ画ク₁コトヲ慣熟シテ、物象ニ及フ」

国会図書館版の方は、二つの「書」のどちらを指すか明確でない。

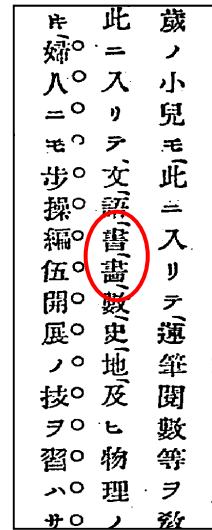
この辺は久米さんらしくない。

この点に関し、田中校注には何もコメントが付いてない。

底本第五編に関し詳しい分析と解説(⑤383~387)があるがその中がない。

これだけ明白な違いがあることに田中先生が見落とされるはずがない。

なぜか?



という書き出しでこのメモを書くつもりであった。

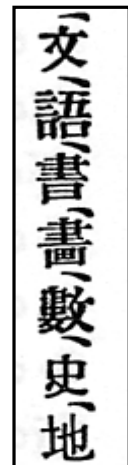
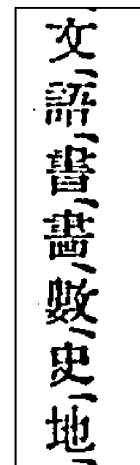
岩波版で「画」という文字を探し、その一つひとつをインターネットの近代デジタルライブラリーで国会図書館版を閲覧して確認する作業に30時間ほど費やしたが、総て「書」になっている。どうも変だ。丁度 インターネットで発注していた宗高書房版が届いた(注2参照)。それを見て、とんだ間違いに気付いた。

二つ目の「書」は 「書」 ではなく 「畫」 であった(右図)。

問題はこの文字を Word で再現する方法である。かな漢字変換に必要な読み方をシャープの手書き文字認識付き電子辞書で入力したがこの文字は出てこない。その次の手段として「今昔文字鏡」で再現してみた。案の定 JIS コードには登録されておらず、Unicode 7575 の文字で、読みは「ガ」である。ところが「ガ」でかな漢字変換して探しても出てこない。

このレポートでは 7575 と入力して[Alt+X]で「畫」をやっと見つけた。ここでは PDF で保存資料にするから問題ない。しかし Word のままで出すデジタル実記の処理に困る(配布先で文字化けの恐れがある)。「畫」

解決策として、デジタル実記では「画」の異字体 「畫」(JISコード E160/Unicode756B)を使うことにした。早くもデジタル実記を改版することになった。



(左) 国会図書館版 (右) 宗高書房版
左は上図を部分拡大したもの
注1参照

(注1) 国会図書館版は近代デジタルライブラリーから読み取った。

これはマイクロフィッシュ版を閲覧しているだけだから、文字品質が悪い。

宗高書房版は自宅でスキャン(300bpi)したもの。

(注2) 宗高書房(1975年)明治11年刊原典復刻版について

⑤385.10に「宗高書房刊の復刻本はB本と思われる」との記述がある。

宗高書房の復刻版をインターネットの「古本屋(<http://www.kosho.or.jp/>)」で見出し、5月上旬に杉原書店から購入した。42,000円は予定外の出費であったが、久米美術館の銅版画集と併せて6冊の買物は保存状も良く充分満足した。国会図書館の近代デジタルライブラリーは容易にコピー出来る利点があるものの、やはり印刷物の方が使い易い。

(完4/4)